



武蔵村山市立第一小学校 学校だより



令和7年4月7日

「1(one), 1(one), 1(one)」

校長 押本 純樹

昨年度は開校 110 周年を迎え、さまざまな記念行事に取り組みました。保護者や地域の皆様方のお力添えの下、どれも充実した活動となりました。年間を通して、子供たちの笑顔や健やかな成長がたくさん見られたのが何よりです。改めて感謝申し上げます。

そして、今年度は 111 周年です。この 1 並びの数字に気づいたのは、110 周年記念式典が終わり、一段落ついた頃でしょうか。もしかしたら、一小にとっては、今年度の方が記念すべき年ではないかと思い始めたのです。10 年をひと区切りにした周年行事は、年を経れば、再び来ますが、1 が三つならば 111 周年は、もう二度と来ません。今後、複数 1 が並ぶのは、千年後の開校 1111 年目です。あまりに遠い先のことで、この世の中、いや世界がどうなっているのか想像が付きません。それだけに一小だけが身近に味わえる 111 周年を特別視したくなりました。

ただ、10 年を節目にした周年は、昨年度行い、それと同じことに取り組んでも新鮮味がありません。何か違った 111 周年ならではの価値づけが必要と感じました。そこで考えたのが、111 を「1(one), 1(one), 1(one)」と読み、1(one)を一人とし、これまで以上に一人一人の存在を意識し、大切に作る年にしたらどうかと思いつきました。このことは、本校が目指している、**みんなで創る「誰一人取り残さない学校」**につながります。

『まずは、一人一人の個性を大事にすることが大切で、その上でクラスがまとまらなければ、それはそれで仕方がない。』と最近教わった。もっと早く知っておけば良かった。」とは、学級づくりがとても上手だった先生が、本校に残した言葉です。学校は集団生活の場であり、基本的な規則や規律を指導しながらも、一人一人が持っている良さを見つけ、引き出し、伸ばしていけたらと思っています。3 月の卒業式で一人一人に証書を手渡していたとき、ある子がきちんと「ありがとうございます。」と答えました。事前指導があったわけではなく、本人の意志によるさり気ないひと言にその子の良さを感じ取りました。一人一人が持っている個性や特性は、本来バラバラです。それを無理してまとめようとするよりも、一人一人の違いを良さとして認め合い、高め合うことができれば、案外一つにまとまるのかもしれない。

新年度が始まりました。今年度も職員一同、力を合わせて子供たちの健やかな成長を支えていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



鬼ごっこに大小は関係ない